

拠点名称：ビヨンド・"ゼロカーボン"を目指す"Co-JUNKAN"プラットフォーム研究拠点

代表機関	東京大学	プロジェクトリーダー	菊池 康紀 東京大学 未来ビジョン研究センター 准教授
参画機関	東北大学、千葉大学、信州大学、和歌山大学、岩手県立大学、芝浦工業大学、早稲田大学、農業・食品産業技術総合研究機構、国際農林水産業研究センター 出光興産株式会社、新光糖業株式会社、Solariant Capital株式会社、株式会社日本触媒、SequencEnergy株式会社、株式会社DGネットワーク、株式会社タクマ、日揮グローバル株式会社、住友林業株式会社、常石造船株式会社、一般財団法人エンジニアリング協会、一般社団法人デジタルグリッドコンソーシアム、岩手県、和歌山県、佐渡市、西之表市、中種子町、南種子町、クィーンズランド州		

プロジェクトの概要

● 拠点ビジョン(未来のありたい社会像)の内容

本拠点では、社会変容の主体である地域が、ゼロカーボンの先にある在りたい将来像からバックキャストすることにより、**具体的かつ魅力的な気候変動対策**を検討できる社会、つまり地域が自律的に行う取組が、環境・生態系保全、食料生産、雇用、地域の伝統・文化の持続的な発展というような豊かさだけでなく、ネットゼロカーボンの実現にもつながる、**ビヨンド・"ゼロカーボン"社会**を目指す。

● 拠点ビジョン実現の為にアプローチ

以下の3つターゲットに紐づく6つの研究開発課題に取り組むことで、**技・知・人**が有機的かつ高度に産学公で循環し合う**"Co-JUNKAN"プラットフォーム**を実装し、地域が自律的にビヨンド・"ゼロカーボン"を目指す社会の実現を目指す。

T1：ビヨンド・"ゼロカーボン"社会を描くCo-learningの展開：

多様なステークホルダーが学びあい、豊かな将来像を描き実現するためのソフト・ハード面の仕組みの開発・設計・実装。産学公や地域間の人材循環、デザイン思考で自律的に将来ビジョンを描ける人材育成のための教育・研修プログラムの設計・実施。

T2：誰でも使えるCo-JUNKAN 基盤の実装：

分散している地域や技術に関する情報を誰でも使える形で集約し、地域固有の条件に合わせた最適な技術・システムの選択肢を提案するシステムの開発・実装。

T3：ビヨンド・"ゼロカーボン"を実現する技術の社会実装：

地域交通・エネルギー、農林業GX、"エネルギー需給構造"など、ビヨンド・"ゼロカーボン"に不可欠な技術システムの開発・地域実証を通じた社会実装に必要な要素の明確化。

● 拠点ビジョン実現に向けた拠点の強み

専門知を持つ大学等、実行力を持つ企業等、地域知と実証の場を持つ地域など産学公の多様な参画機関から、年齢、性別、専門分野（自然科学系、人文・社会科学系）も多様な人材が集まっています。幅広い能力・役割・経験・価値観、全体を俯瞰して評価・設計するシステム思考、10年以上の産学公共創経験によるネットワークを持つ本拠点は、ビヨンド・"ゼロカーボン"社会の実現というグローバルかつローカルな喫緊の課題に対し、多面的かつ具体的に取り組むことができると確信している。

本拠点の全体像「実践」の場と「学理」を相互につなぎ、仕組みを世界展開

